

皆様おはようございます。9月第一週目の礼拝の時を迎えております。

1 神と主イエス・キリストとの僕ヤコブから、離散している十二部族の人々へ、あいさつをおくる。

「神と主イエス・キリストとの僕ヤコブ」。

このヤコブはイエス様の弟であり、使徒15章のエルサレム会議にて指導的な役割を持っていたヤコブであると考えられます。

「兄弟たちもイエスを信じていなかった」(ヨハネ7:5)とありましたが、主の復活の後に深く主を信じる者となり、自らを神から遣わされた主イエスキリストのしもべと呼ぶまでになりました。この書には、信仰とはどういうものか、信ずる者はどのように生活するべきか、教会とはどういうところかなど、実践的な示唆に富む言葉が記してあります。

離散の民。これは広くローマ世界に散在しているユダヤ人、および「ステパノのことで起った迫害のために散らされた人々」と使徒11章19節にあります民を意味します。

2 わたしの兄弟たちよ。あなたがたが、いろいろな試練に会った場合、それをむしろ非常に喜ばしいことと思いなさい。

3 あなたがたの知っているとおりに、信仰がためされることによって、忍耐が生み出されるからである。

先日ヘブル12章で学びましたように「すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる」とありますように、試練というものは喜ばしいものとは思われませんが、ここでは「それをむしろ非常に喜ばしいことと思いなさい」と記してあります。

様々な試み、テストに遭遇するということが、これは私たちにとって苦しみです。学生の方々にとってはこの「テスト」という言葉ほどおぞましいものはないと言われるかもしれませんが。しかしこのあらゆる色々な試練というものは、私たちの信仰をテストし、それが忍耐を生じさせるから、試練はすべからず喜びとすることが出来るのだ、むしろ非常に喜ばしいことと判断することが出来るのだと語るのです。

4 だから、なんら欠点のない、完全な、でき上がった人となるように、その忍耐力を十分に働かせるがよい。

このあらゆる様々な信仰のテストによって、あの手この手によって私たちの信仰がテストされるということによって、私たちは完全な出来上がった人としての自分を得ることが出来るということです。ですから、私たちにとって、信仰の完成が何よりも大切なのです。それが私たちを完全な、出来上がった人となすのですから。ですからその錬成の機会は貴重で尊いのです。

私たちにとって様々な難しい状況とは、ひとえにこの「信仰」を練る機会であると理解できるのです。こういう時私たちはどうするということが、私たちにとって信仰の働く機会とするときに、信仰の訓練として信仰によって一つ一つの事を考え行くとき、私たちはこの信仰のテストに参加することとなり、信仰によって考えることはすなわち忍耐を得て働く場となり、それが「なんら欠点のない、完全な、でき上がった人」に至らせる道であるから、この状況は、むしろ非常に喜ばしいことなのだと言われます。

ローマ 5:3 それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、
5:4 忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。
5:5 そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。

マタイ 16:24 それからイエスは弟子たちに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思ふなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。

16:25 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。

16:26 たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。

マタイ 4:23 イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。

4:24 そこで、その評判はシリア全地にひろまり、人々があらゆる病にかかっている者、すなわち、いろいろの病気と苦しみとに悩んでいる者、悪霊につかれている者、てんかん、中風の者などをイエスのところに連れてきたので、これらの人々をおいやしになった。

4:25 こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ及びヨルダンの向こうから、おびただしい群衆がきてイエスに従った。

5:1 イエスはこの群衆を見て、山に登り、座につかれると、弟子たちがみもとに近寄ってきた。

5:2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて言われた。

5:3 「こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。

5:4 悲しんでいる人たちは、さいわいである、彼らは慰められるであろう。

ローマ 8:37 しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。

8:38 わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、

8:39 高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。

5 あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

6 ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。

この「知恵」という言葉が突如として出てきたように思いますが、これは箴言 1 章のこの言葉を指すのではないでしょうか。

1:7 主を恐れることは知識のはじめである、愚かな者は知恵と教訓を軽んじる。

1:8 わが子よ、あなたは父の教訓を聞き、母の教を捨ててはならない。

主を畏れ、主を信じて生きる。風の吹くままに揺れ動く海の波のように、私たちは吹きまわされるだけの不安定な、定かならない生き方の中にいました。しかし私たちはガリラヤの嵐を治める主にお会いしたのです。

マルコ 4:35 さてその日、夕方になると、イエスは弟子たちに、「向こう岸へ渡ろう」と言われた。

4:36 そこで、彼らは群衆をあとに残し、イエスが舟に乗っておられるまま、乗り出した。ほかの舟も一緒に行った。

4:37 すると、激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込んできて、舟に満ちそうになった。

4:38 ところが、イエス自身は、舳の方でまくらをして、眠っておられた。そこで、弟子たちはイエスをおこして、「先生、わたしどもがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか」と言った。

4:39 イエスは起きあがって風をしかり、海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった。

4:40 イエスは彼らに言われた、「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか」。

4:41 彼らは恐れおののいて、互に言った、「いったい、この方はだれだろう。風も海も従

わせるとは」。

このお方を信仰によっていつも信じ続けること、これが私たちの極めて不安定な、明日をも知れぬ風に吹かれて右に左にと押し流されるように翻弄される人生への答えです。主は咎めもなく、惜しみなく、私たちに知恵を与えて下さいます。

ソロモンも神様の前に知恵を求めました。

歴代誌下 1:7 その夜、神はソロモンに現れて言われた、「あなたに何を与えようか、求めなさい」。

1:8 ソロモンは神に言った、「あなたはわたしの父ダビデに大いなるいつくしみを示し、またわたしを彼に代って王とされました。

1:9 主なる神よ、どうぞわが父ダビデに約束された事を果してください。あなたは地のちりのような多くの民の上にわたしを立てて王とされたからです。

1:10 この民の前に出入りすることのできるように今わたしに知恵と知識とを与えてください。だれがこのような大いなるあなたの民をさばくことができますでしょうか」。

1:11 神はソロモンに言われた、「この事があなたの心にあって、富をも、宝をも、誉をも、またあなたを憎む者の命をも求めず、また長命をも求めず、ただわたしがあなたを立てて王としたわたしの民をさばくために知恵と知識とを自分のために求めたので、

1:12 知恵と知識とはあなたに与えられている。わたしはまたあなたの前の王たちの、まだ得たことのないほどの富と宝と誉とをあなたに与えよう。あなたの後の者も、このようなものを得ないでしょう」。

マタイ 6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。

6 ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。

7 そういう人は、主から何かをいただけるもののように思うべきではない。

8 そんな人間は、二心の者であって、そのすべての行動に安定がない。

9 低い身分の兄弟は、自分が高くされたことを喜びなさい。

ヤコブ 2 章にもありますが、教会の中に貧しきものと富む者があり、差別がなされる危険性

が心の中にあったことが分かります。

二心と8節にあります。これは神様への忠誠心が分かれてしまった人、煮え切らずに態度をはっきりさせない、偽善者のことを意味します。表ではさも信心深いように見せかけながらも心根はそうではないという分裂型の、芯まで煮え切っていない、そういう人の事を指します。信仰が骨の髄まで達していないのです。

低くされるということもまた、試練の一つです。ひたすらに信仰に生きて、報われない時があります。無理解や中傷、批判や迫害があります。冷や水を欠けられるような、意気消沈することがあります。しかし、ここにも喜びなさいとあります。言い換えれば自慢しなさいとあります。

そのような低き状態こそ高められる他ならないから、大喜びして自慢しなさい。誇り、鼻にかけ、誇らしく思いなさいとあります。

ルカ 14:11 おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」。

1 ペテロ 5:5 同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。また、みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。

5:6 だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるのである。

5:7 神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。

1 テモテ 6:3 (新改訳聖書) 違ったことを教え、私たちの主イエス・キリストの健全なことばと敬虔にかなう教えとに同意しない人がいるなら、

6:4 その人は高慢になっており、何一つ悟らず、疑いをかけたり、ことばの争いをしたりする病気にかかっているのです。そこから、ねたみ、争い、そしり、悪意の疑りが生じ、

6:5 また、知性が腐ってしまって真理を失った人々、すなわち敬虔を利得の手段と考えている人たちの間には、絶え間のない紛争が生じるのです。

6:6 しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。

6:7 私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また何一つ持って出ることもできません。

6:8 衣食があれば、それで満足すべきです。

6:9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。

6:10 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めた

めに、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。

6:11 しかし、神の人よ。あなたは、これらのことを避け、正しさ、敬虔、信仰、愛、忍耐、柔和を熱心に求めなさい。

10 また、富んでいる者は、自分が低くされたことを喜ぶがよい。富んでいる者は、草花のように過ぎ去るからである。

11 たとえば、太陽が上って熱風をおくると、草を枯らす。そしてその花は落ち、その美しい姿は消えうせてしまう。それと同じように、富んでいる者も、その一生の旅なかばで没落するであろう。

富む者であっても、低き者として進みなさい。神の知恵と神に対する信仰がなければ、すべてのものは無常にも過ぎ去ることを知りなさいと今日の聖書の箇所は語ります。

私たちにとって大切なのは信仰であることを教えられます。主の力強さとご真実を少しも疑わずに進むこと、愚直にも主のみを信じてそのことをわが知恵となすとき、私たちは激流の中をまっすぐに進むことが出来るのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。神様、今日も私たちに何を

知り、何を信じて生きるべきか、神様を信じるといふことの幸いをお教えてください、

ありがとうございます。あらゆる種類の試練、信仰の試練は忍耐を生じさせ、

それを働かせるとき、私たちは完全で申し分なく、何一つ欠けたところのない人

になるという事を感謝いたします。風の吹くまま揺れ動く、成すすべのない人生

の中、信仰心すらままならず安定を欠き、どこに行くかもしれない中、少しも

疑わずに信仰をもって神の知恵を求める時、貧しい境遇であっても高くされる

主の尊いお導きに感謝いたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。

い。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン